

< 育成担当指導者 B 分散会 > 「リーダーの育成計画について」

< 1 日目 >

【問題提起】

育成対象とするリーダー

リーダー会に所属しているリーダーだけでなく、単位団で活動している、リーダーに対してのアプローチや育成はどうしていくか？

指導者の認知度の違い

単位団の指導者の認知度が上がれば、リーダーの育成がスムーズにいくのではないだろうか？

日本スポーツ少年団のサポート

制度の改正や講習内容を改善することで、リーダー育成する基盤ができるのではないだろうか？

【対策】

- 1 ジュニアリーダースクールのあり方
- ・ 地域単位でのスクール(初級ジュニア)を小学生対象に開催し、受講した団員を、県にジュニアリーダースクールで受講させていく。このことで、レベルに応じた指導内容が可能になる。
- ・ ジュニアリーダースクールから、シニアリーダースクールへとつながる期間が長いのでジュニアリーダースクール終了者に対する働きかけをしていくことで、スポーツ少年団とのつながりを継続する。(例)ジュニアリーダースクールへの再参加(補助員として)

- 2 リーダーのプロモーション
- ・ リーダーの存在価値を高めていくための PR が必要。活動する場をつくっていく。
- ・ リーダーのリストアップすることで、つながりが継続できる。

- 3 競技性の高い単位団におけるリーダーの役割と育成
- ・ パイプ役だけではなく、コーチ性を高めていくことで、特技指導者への移行がスムーズになる。
- ・ 部活との板ばさみになって、次第にスポーツ少年団から遠ざかっていく。

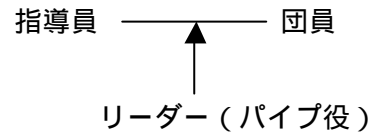
- ・スポーツ少年団指導者と中学校指導者との連携（話し合いの場、スポーツ少年団の部活動を知らせるなど）
指導者のリーダーに対する認知度アップ　リーダーの活躍の機会を増やす。
- ・認定講習会のカリキュラムにリーダーの必要性、養成のしかた等を入れることで認知してもらおう。
- ・指導者、育成母集団講習会での「リーダーの存在」に関する PR（あらゆる機会をとらえて）

日本スポーツ少年団本部のサポートが必要。

- ・講習会テキストの改訂　リーダー養成に関する内容。
（成功事例だけでなく、失敗事例も）
- ・リーダーの位置づけを明確に
（リーダーのイメージ作り）　決してオールマイティーなリーダーを求めている。
自分の特技を活かせるリーダー育成が必要。
- ・リーダー養成上のつながり　講習会の期間を短くできないか。
初級ジュニア（小 6 まで）ジュニア（中～）シニア（高～）発達段階に応じた指導で空白を作らない。
- ・ユースリーダー＜（18 歳～20 歳まで）　シニア受講者＞の活用。
- ・問題提起して終わらせるのではなく、来年度のこのリーダー連絡会での回答がほしい。
「リーダー育成をより進めるために、リーダーの存在価値を高める土壌を作っていくことが、必要である。」という前提に立って、話し合いを進めました。
この連絡会を含めて、本部の地道な取組により、地域の温度差が解消され、スポーツ少年団やリーダー養成に関する意識改革が進んでいるように感じられました。

< 2 日目 >

- ・リーダーの認知度の拡大について



- ・団員を募れる場を増やす。
- ・ジュニア—シニア—ユース こうなると（継続）おもしろいのでは？
（初級） （中級） （上級）

【地域密着型のリーダーを育成する】

- ・色々な問題提起はあるが、日本本部として見解がほしい。
- ・競技種目のスポ少では、ただのパイプ役ではなくアシスタントコーチとしての立場もあるのではないか。



次世代を担う指導者

- ・指導者の認知が低いとリーダーが登録する単位団がない。
（リーダーに対する）
- ・中学生、高校生になってくると部活とのかねあいが大変である。
- ・スポーツ少年団が子供達を育成しているのは、深く浸透しているが、スポーツ少年団がリーダーを育成しているという事を広く認知してもらうことが大切である、そのためにPR活動が重要である。

【日本本部への見解要求】

- ・テキストの内容（リーダーの位置付け） 競技種目のリーダーの事例や、
ジュニア シニア ユース 指導者のステップアップ（継続）指導者のリーダー
に対する理解の方策。

【育成対象のリーダー】

- ・種目競技でのリーダー育成の必要性と方法

【指導者の認知度】

- ・認知が広まるにつれてリーダーの活躍の機会が増えるのでは？
- ・認定員講習のカリキュラムにリーダーについてのカリキュラムを入れてもらえないか。

【各県の事例報告】

・宮崎県・

- ・県指導者協議会をリニューアルし認定育成部会を作った。
先日 Jr リーダースクールを行った際に補助員のリーダーに一言いうと態度が変わり成功した。参加者と同じ目線で活動する事を意識づけさせた。

・福島県・

- ・ブロック研究大会の開催地（H17 年度）になっているがなかなか人が集まらない。（仕事、学校との兼ね合い）

・香川県・

- ・会員は 70 名以上はいる、しかし均等に市町村にいるのではなく、一つの市に集中し、あとはばらばらの状態。書類を事務局で止めてしまったことがある。
認定員コースも監督やコーチではなく母集団の中からでてくる。

・群馬県・

- ・後期 Jr リーダースクール終了者に対し、リーダー会主催の研修会（2泊3日）を行っている。自立したリーダー会を目指している。

・福井県・

- ・ジュニア シニア ユースという部門をもうけており組織ぐるみで、上の子が下の子を育成している。小学 5 年生から県リーダー会に入会できるので、Jr リーダースクールからシニアまでの空白がない。